



令和 7 年 11 月 2 日 (日) 09:00-10:30

第 4 会場

<テーマ>

臨床検査技師が視る、POCT の未来と課題

<ねらい>

POCT (point of care testing) とは、被検者の傍らで医療従事者が行う臨床検査である。近年では、POCT 機器による迅速かつ適切な診断・治療、疾病予防、健康増進への貢献により、その重要性がますます高まり病院やクリニック、検診センターだけでなく、在宅医療・災害医療など様々な場面で活用されている。その一方で、精度管理やトレーサビリティ、教育、機器の管理など品質保証 (Quality Assurance : QA) の課題が浮き彫りとなっており、ISO15189:2022 でも POCT 機器の適正運用や、医療現場でのエビデンスに基づいた管理が必要であると考えられている。生物化学分析部門では、多角的な視点から今後の臨床検査と POCT の在り方について考え、最新の知見や現場での実践事例を紹介する。

司会 齊藤 翠 (藤田医科大学病院 臨床検査部)

古森 由規 (市立四日市病院 中央検査室)

<講演内容>

1. ISO 15189:2022 取得に伴うポイント・オブ・ケア検査 (POCT) に関する取り組み
演者：金子 成美 (聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院 臨床検査部)
2. POC コーディネータの役割について
演者：工藤 雄貴 (新城市民病院 臨床検査課)
3. SMBG の精度管理と運用 ―導入から見えてきた課題―
演者：神谷 志穂 (岐阜県総合医療センター 中央検査部)
4. 在宅医療における POCT の意義
演者：中川 凌治 (市立四日市病院 中央検査室)
5. 震災時における CGM の有用性 ～能登半島地震の経験から～
演者：山口 拓也 (社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 臨床検査課)